

## 図書館協議会会議録

と き 平成 22 年 8 月 6 日 (金)  
午前 10 時から午前 11 時 30 分  
ところ 名張市立図書館 2 階 視聴覚室

出席者：協議会委員 久保、澤田、山中、高倉、岩見、平井、山岡  
(欠席者：湯浅)

教育委員 松尾  
事務局 中野、木村、宮前

### 1 辞令交付

松尾教育委員より辞令交付

### 2 議事

(1) 平成 21 年度図書館利用状況について、(2) 平成 21 年度利用者アンケート結果報告について、を一括して事務局より報告する。

### 委員からの主な意見

『図書館要覧』24 頁に、リクエストに応えられなかった件数が記載されているが、具体的な事例を教えてください。また、毎年統計を取っているか。

品切れ、絶版などで購入できず、かつ他の図書館でも所蔵していないような資料である。特に、医学書などの専門書が多くなる。統計は、平成 19 年度から取っている。

21 年度の各指数はいい数字が並んでいる。特に、回転率(4.56 回)はいい数字である。理想の数字は 4 回で、これより高すぎると本が足らなくて、これより低すぎると蔵書に魅力がないことになる。貸出密度の 7.16 もいい数字である。サービス指標という視点から見るとかなりいいところをいっている。ただ、蔵書の鮮度(年間購入冊数/開架蔵書冊数)は 20%が理想だがちょっとつらい数字になっている。そのつらさがアンケート結果の新刊購入を望む人が多いことに反映していると思われる。YA(ヤングアダルト)をひきつける魅力がない。ここらへの工夫は学校図書館との関係になってくると思う。

アンケートのとり方について、問い 1 2 の質問で図書館に最も望むことを聞

いているが、11)職員の資質を向上させる、という選択肢は漠然としている。1)、2)、3)などは非常に具体的で数字が伸びる。11)の選択肢のように具体的でないものは潜在的に要望があったとしても数字としては伸びない。具体的な事項としてあげる設問を考えることが必要。

視聴覚資料をどのように扱うかという問題は、図書資料と視聴覚資料の本質的な違いを認識し、図書館の基本的なコンセプトとしてどちらに比重を置くべきか、この図書館としてどうするかをきちっと定める必要がある。

図書館の利用目的の設問で、「自分で調べ物」が10.7%で「図書館職員に調べてもらう」が0.6%という結果について、「図書館職員に調べてもらう」と答えた人が少なかったことが意外であるということだが、図書館のレファレンス機能が認知されていないということ。図書館員のスキルはそこにある。図書館員への期待度が低い、図書館員が何をしてくれるかわからないということもある。カウンターの中で忙しそうにしていると聞きにくい雰囲気がある。利用者が遠慮してしまうこともあるので、「何でも聞いてください」といった案内を館内に設置することも考えてはどうか。コミュニケーションがとれているか。世間話から始めて、利用者と自分の距離を縮めていくことも必要。

立地条件とか分館の整備とかいう話はどうしようもない。車がなければ図書館に来にくい立地条件であるので、今後、名張市全体の問題として移動の手段の整備を考えていくことが必要になる。このことから、移動図書館の灯を消さないこと。図書館の全域サービスができていない中で分館建設はとても無理としても、せめて移動図書館を守り通すことは絶対必要である。

学校図書館に対して公共図書館としてどのようにアプローチするのか。まずは、公共図書館としてのグランドデザインを本気で考えていただきたい。対症療法だけでもだめ、遠大な理想だけでもだめ。短期的なもの中期的なもの整理して考えていただきたい。

### 3 その他 特になし